

# RICSS (Regional Infection Control Support System) について

平成29年2月3日

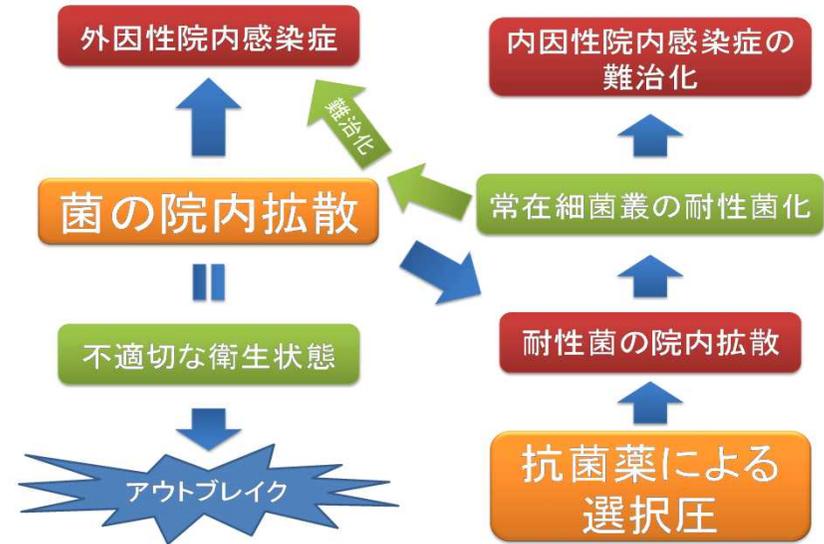
東海大学医学部基礎医学系  
生体防御学(細菌学/感染症学)  
藤本修平

# 感染対策の地域連携支援システム Regional Infection Control Support System RICSS の背景と概要

そもそもなぜ耐性菌時代なのか？



- ① 先進医療は**生体防御機能を傷害**する行為で成り立っている。
- ② 生体防御能に障害のある易感染患者は、**弱毒の日和見感染菌**による感染症を発症する。
- ③ 身近にある弱毒菌は、常在菌と環境菌であり、**日和見感染菌は常在菌と環境菌**である。
- ④ 常在菌と環境菌は、易感染患者に対する治療を安全に行うために**抗菌薬が多用されている医療環境**に長時間存在するため、**感性菌は淘汰**され、耐性菌、中でも、**多剤耐性菌、高度耐性菌**が**選択**される。
- ⑤ 常在菌や環境菌には免疫機構による排除が起きないので、起因菌の治療時には、常在菌叢、環境において、**確実に耐性菌の選択**が起きる。**(弱毒菌の方が耐性菌の選択が起こりやすい。)**



菌の院内拡散制御と抗菌薬による耐性菌選択圧の制御が重要

## 菌の院内拡散制御

院内拡散の早期発見による介入

院内感染対策の徹底

## 抗菌薬による選択圧制御

抗菌薬使用適正化  
(antimicrobial stewardship)

抗菌薬使用の標準化

抗菌薬使用状況/耐性菌分離状況による介入

感染症診療の適正化

感染症診断法の標準化



RICSSは、施設・地域に任されてきた感染経路、感染症、感染診療、感染対策の実施状況の監視も支援し、従来のシステムと連携し、補完する



**施設属性**

施設名 加算区分(1または2) 病床数 細菌検査室の有無

のべ入院日数 (patient days)

**ICT活動**

会議回数 ラウンド回数 抗菌薬適正使用への取り組み

感染経路別予防策マニュアルの有無

**指標**

擦式アルコール消毒薬総使用量

抗菌薬使用量

AUD DOT

耐性菌検出件数 (患者数)

MRSA ESBL CRE MDRP CRPA MDR A CRA VRE

3<sup>rd</sup> Gen Ceph Res E. coli 3<sup>rd</sup> Gen Ceph Res KP FQ Res E. coli

CLABSI (件数) CDTキシン検出数 (患者数) → **CDIのみ**

血液培養

提出数 陽性検体数 汚染検体数 2セット採取率

感染経路別主疾患患者数

接触感染 飛沫感染 空気感染 → **インフルエンザ、ノロウイルス発症患者数のみ**

感染対策の実施状況とそのアウトカムに関する情報を集める

\* CLABSIについては、実施病棟、発生数、実施病棟の延べ入院日数 (PtDs)、デバイスデーを収集するが、集計法は未定

- 介入対象薬剤と介入内容 (監視のみ/介入)
- 監視頻度、介入回数

JACSデータ利用。JACS不参加施設は、AUD (総使用量を入力)のみで可。

「耐性率」を見るため感性菌を含めた件数(患者数)も収集。ESBL以外はJANISデータ利用。ESBLはダブルディスク法相当の確認をおこなったもののみ。ESBL、第3世代セファロスポリン 耐性大腸菌以下は任意。JANISデータ利用可。

JANISデータ利用。

手指衛生の評価

※ 検帯による個人使用量を測定した  
 ※ 直接観察で遵守率を調査した  
 ※ (上記実施の場合) 職員にフィードバック

手指消毒用アルコール製剤使用量

アルコール製剤名 使用量 mL 測定方法(測定している場合)

ウイルス感染症発症患者数

ノロウイルス 人  
 インフルエンザ 人

CLABSI

調査対象診療科  
 調査対象診療科延べ入院患者数 人  
 同デバイス・day 日  
 発症数 件

抗菌薬使用状況

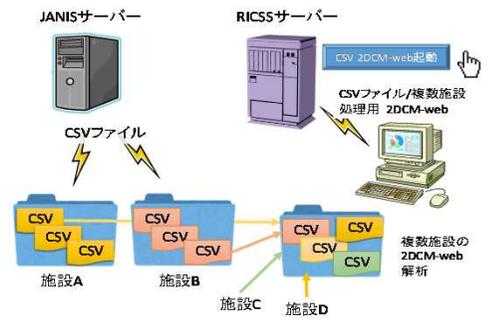
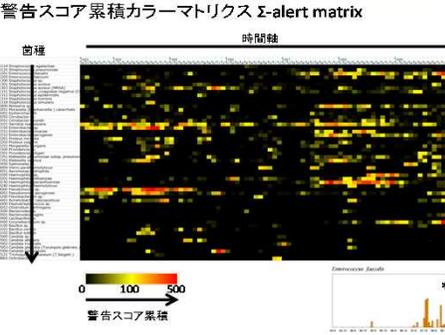
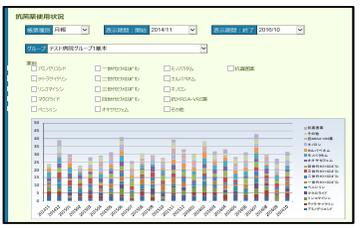
JACSデータ取り込み

延べ入院患者日数(必須) 1498 日

系統	薬品名	商品名 (代表例)	採用の有無	使用量
β内酰胺系	ストレプトマイシン	ストレプトマイシン	○	0
	カナマイシン	カナマイシン	○	0
	アミカシン	アミカシン	○	0
	ゲンタマイシン	ゲンタシン	○	0
	ジバネリン	バネマイシン	○	0
	トブラマイシン	トブラシン	○	0
	イソパネマイシン	イソパネ	○	0
	ベカシマイシン	カネトマイシン	○	0
	リネスタマイシン	ピスタマイシン	○	0
	スベチクマイシン	トビシリン	○	0
テラサイクリン	ミサイクリン	ミマイシン	○	0
	カラムマイシン	カラム	○	0

事業化時には、電子レセプト、DPC データファイルからの抽出を可能にします。

JANISデータ、JACSデータなどを活用できるが、Web画面から全ての項目の手入力も可能である



RICSSがAMR対策のダッシュボード: Command Center View (Desktop) となる

既に多彩な出力を予定しているが、自由なグループ機能を活かした、AMR対策のダッシュボードを目指す